

こいた 小板まきばの里通信Vol 8.1

～常緑広葉樹を探してみよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

■ キャンプ場周辺で冬の植物を探索しよう！



■ 里山の自然観察 ～常緑広葉樹を探してみよう～

12月になると、キャンプ場から見える山の落葉樹の葉はすっかり落ちて、残った緑の殆どは杉や赤松等の針葉樹になります。広島市周辺等の標高の低い場所も12月後半には落葉を迎えますが、落葉後の山を比べてみると標高の低い場所のほうが緑が多いことに気が付きます。標高の低い場所には、針葉樹の他にカシヤクスノキ、タブノキなどの常緑広葉樹の高木が冬でもこんもりと緑の葉を茂らせているのです。積雪が多く気温が低いキャンプ場の近くでは、寒い中で葉を維持するのが難しいので、背が高い常緑広葉樹は育ちません。しかし林の中を見てもエゾユズリハやミヤマオモトなど背の低い常緑広葉樹の木があちらこちらにあることに気が付きます。これらは落葉した木の下で光合成をしながら、意外と暖かい雪の下で冬を乗り切れるように、雪に埋まるくらいの高さ以上にならないという選択をした常緑広葉樹たちなのだとか。落葉後の季節だからこそ見つけやすくなる常緑広葉樹を探してみましよう。